

■ 調査・予測の手法：騒音

<評価項目>

〔工事の実施〕

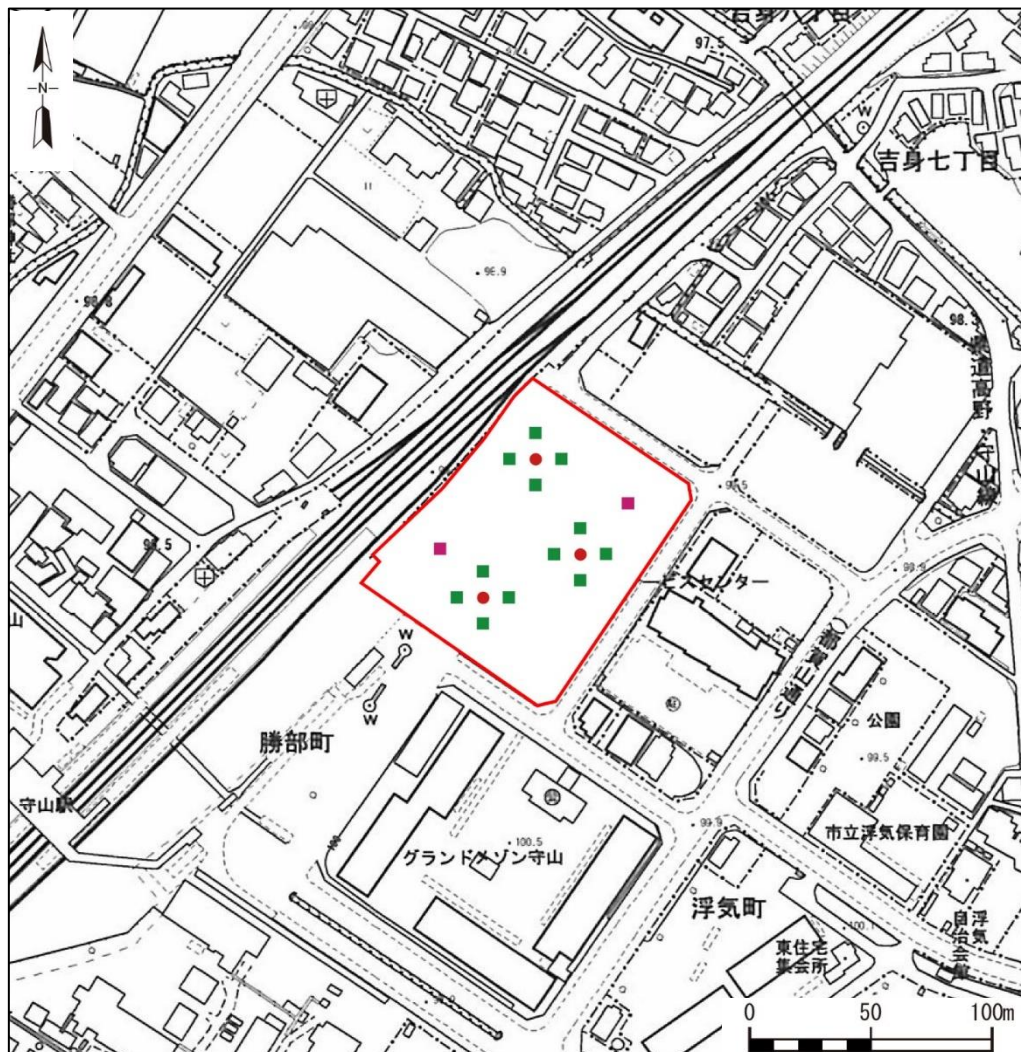
- ・ 重機の稼働による騒音の影響
- ・ 工事用車両の走行による騒音の影響

〔施設の供用〕

- ・ 施設の供用（設備の稼働）による騒音の影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：騒音 ● 評価項目：重機の稼働



<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 工事中：重機の稼働による騒音の影響

■ 予測方法

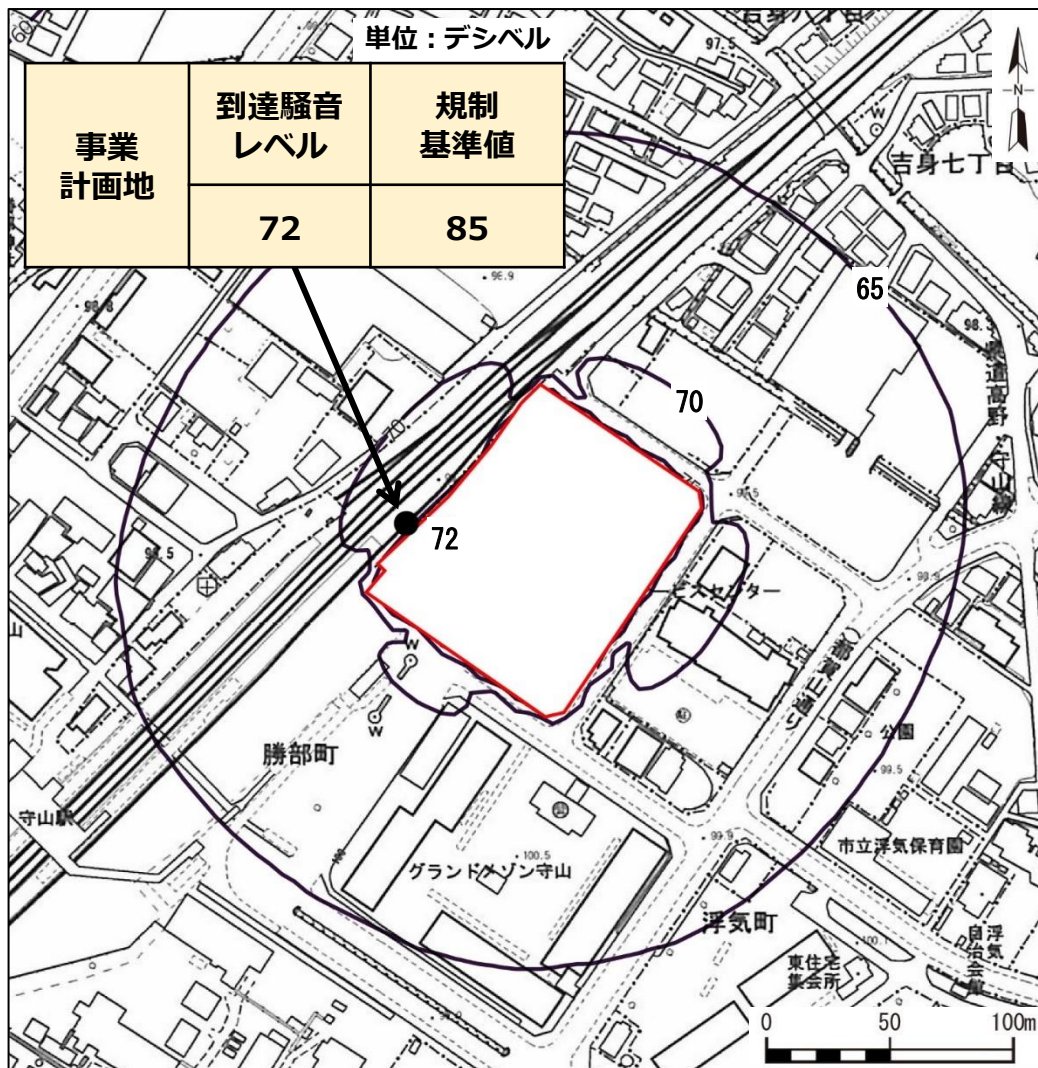
- ・ 数値計算（音の伝播理論式）

凡例 ○ 対象事業実施区域

- ラフタークレーン 70t
- ポンプ車 10t
- 生コン車 4.4 m³

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：重機の稼働



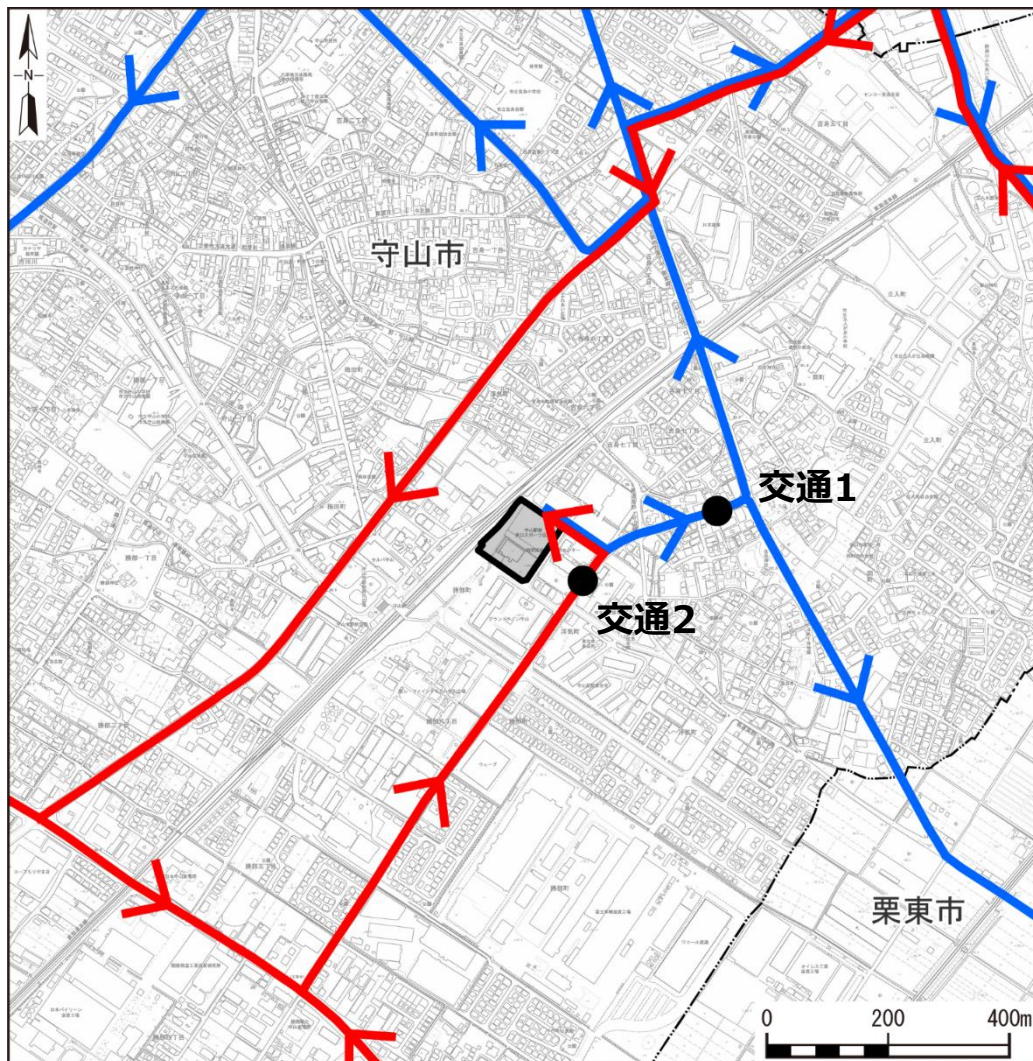
<予測結果>

敷地境界（地上1.2m）の到達騒音レベルが最大**72**デシベルと予測され、特定建設作業に係る騒音の規制基準値（85デシベル）を下回ると予測されました。

- 凡例
-  対象事業実施区域
 -  最大騒音地点

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：騒音 ● 評価項目：工事用車両の走行



<調査内容>

■ 調査項目

- ・騒音の状況（道路交通騒音）

■ 調査方法

- ・現地調査
（主要走行ルート沿道2地点）

<予測内容>

■ 予測項目

- ・工事中：工事用車両走行時の騒音

■ 予測方法

- ・数値計算（音の伝播理論式）

凡例 ○ 対象事業実施区域
工事用車両の主要な走行ルート
— 搬入ルート
— 搬出ルート
● 調査地点

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：工事用車両の走行

■ 工事最盛期将来交通量

単位：台/時

予測地点	時間区分	一般車両			工事用車両			合計		
		小型	大型	計	小型	大型	計	小型	大型	計
交通1	昼間	7,112	507	7,619	67	167	234	7,179	674	7,853
	夜間	377	26	403	0	0	0	377	26	403
交通1	昼間	7,486	475	7,961	67	167	234	7,553	642	8,195
	夜間	418	27	445	0	0	0	418	27	445

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：工事用車両の走行

<予測結果>

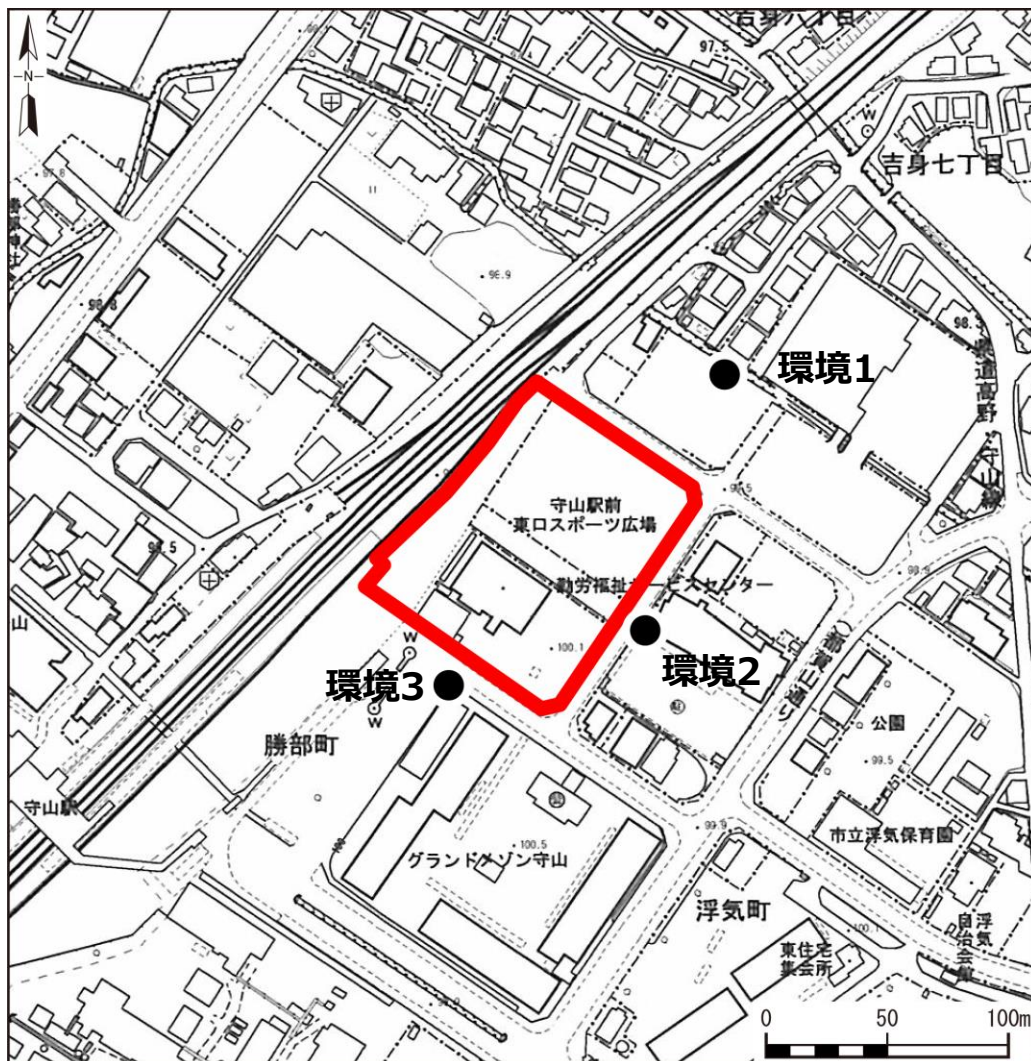
道路交通騒音の増分は最大で0.3デシベルと予測され、工事中の道路交通騒音の予測値は環境基準値を下回ると予測されました。

単位：デシベル

予測地点	時間区分	等価騒音レベル（ L_{Aeq} ）			環境基準値	要請限度値
		一般車両＋工事用車両	一般車両	工事用車両による増分		
交通 1	昼間	64.5	64.2	0.3	65	75
	夜間	58.6	58.6	0.0	60	70
交通 2	昼間	63.3	63.0	0.3	65	75
	夜間	57.6	57.6	0.0	60	70

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：騒音 ● 評価項目：施設の供用



<調査内容>

■ 調査項目

- ・ 騒音の状況（環境騒音）

■ 調査方法

- ・ 現地調査
（対象事業実施区域周辺 3 地点）

<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 供用時：設備の稼働による騒音の影響

■ 予測方法

- ・ 数値計算（音の伝播理論式）

凡例 ○ 対象事業実施区域
● 調査地点（施設の供用）

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：施設の供用

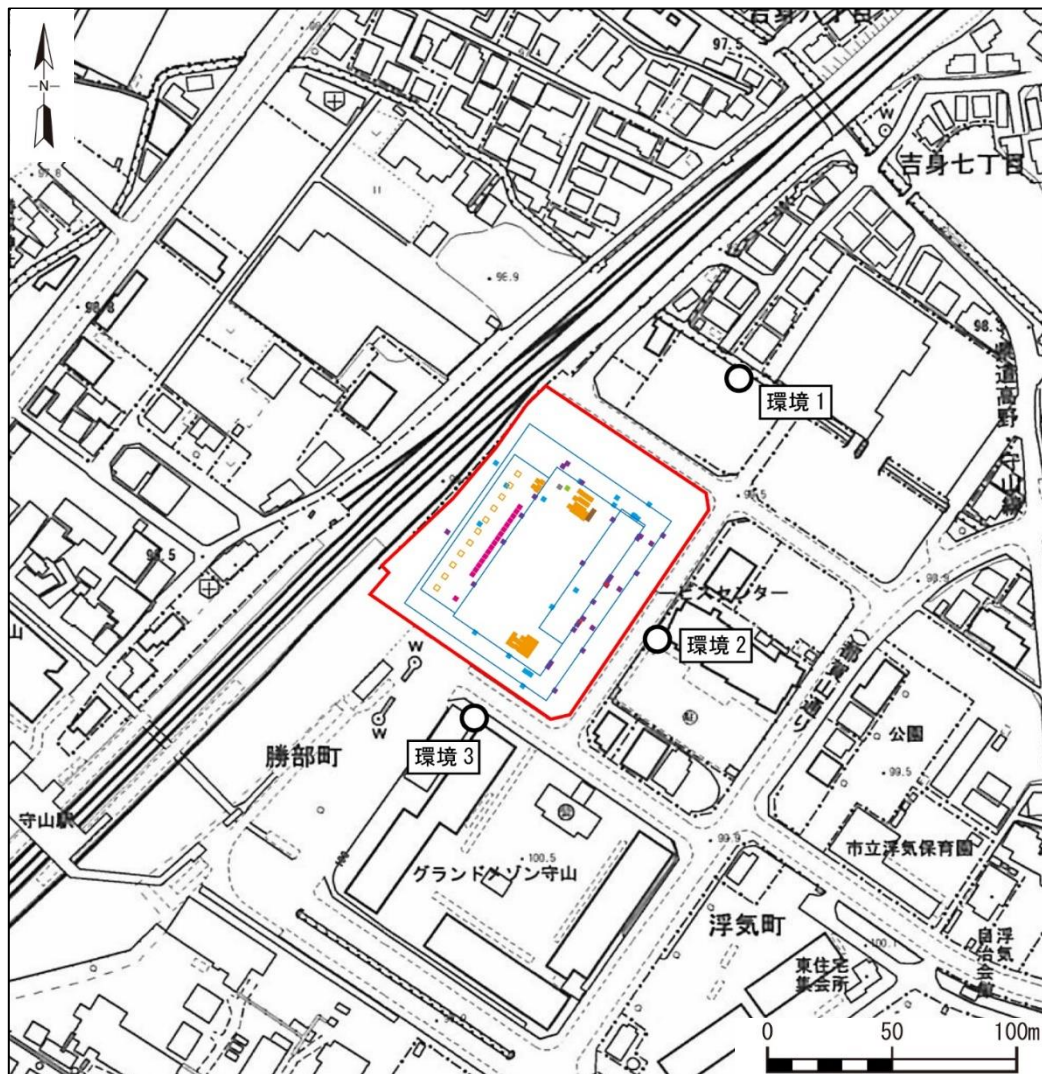
■ 空調設備等のパワーレベル

設備名称	容量・出力	台数	パワーレベル (デジベル)
冷却塔	5.5kW	17	84.0~87.1
空冷ヒートポンプ	2.2kW	11	77.6~77.8
室外機	28~136kW	50	70.0~80.1
スクラバー	2.2kW	1	87.0
ファン	13,550CHM	1	103.0
エコキュート	0.46kW	4	69.0
給排気口	-	108	70.0~80.0
換気口	-	28	65.0

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：施設の供用

■ 騒音源および障壁配置（平面図）

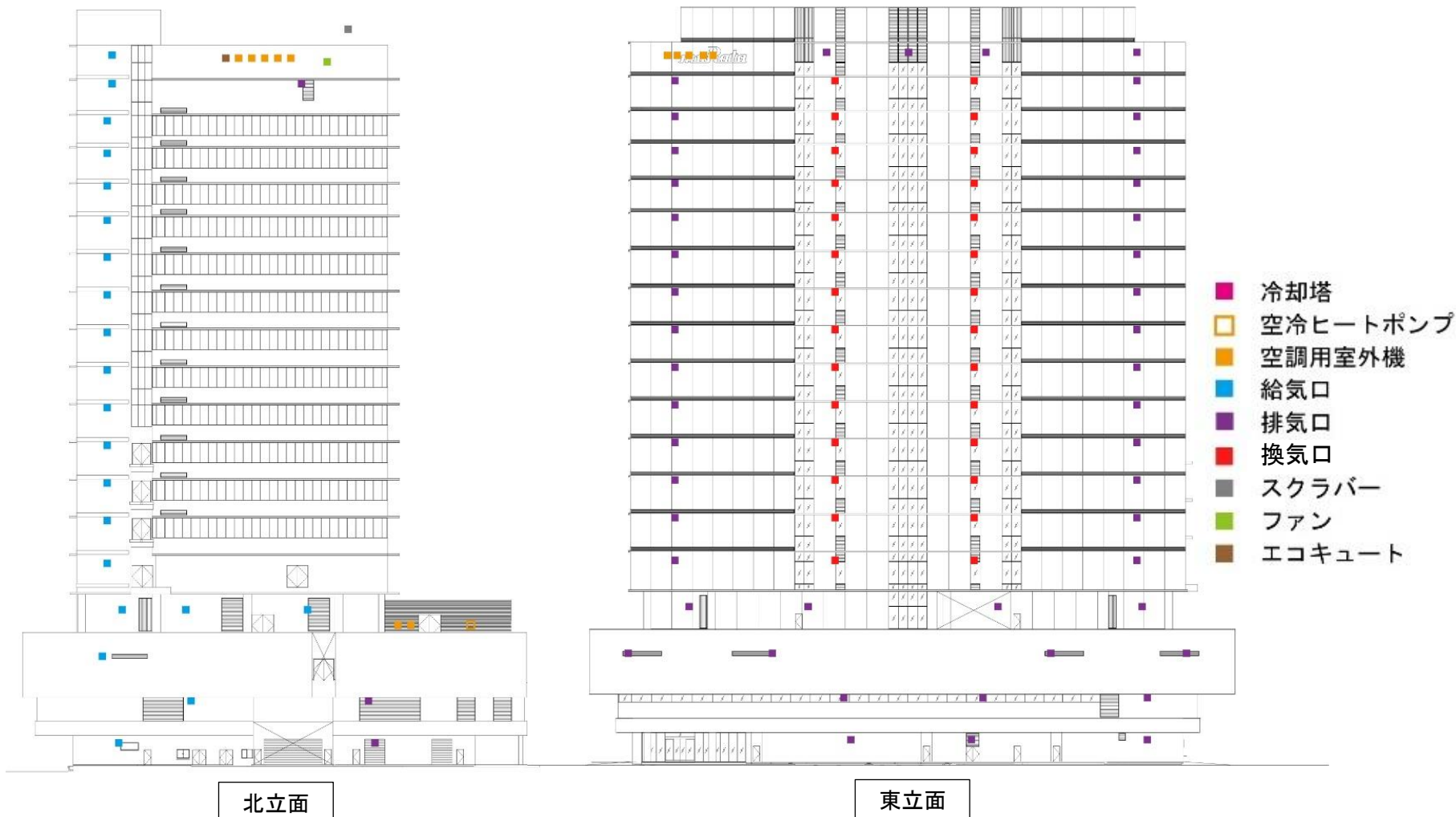


- 凡例
- 対象事業実施区域
 - 冷却塔
 - 空冷ヒートポンプ
 - 空調用室外機
 - 給気口
 - 排気口
 - 換気口
 - スクラバー
 - ファン
 - エコキュート
 - 建屋障壁
 - 施設騒音影響予測地点（環境1・2・3）

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：施設の供用

■ 騒音源および障壁配置（立面図）



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：施設の供用

<予測結果>

対象事業実施区域周辺住居地点での空調設備等の稼働により発生する騒音の到達騒音レベルと、現況騒音レベルとを合成した総合騒音レベルは最大で昼間56デシベル、夜間49デシベルになると予測され、環境基準値を下回ると予測されました。

単位：デシベル

予測地点	平休日	時間区分	到達騒音レベル (L _{Aeq})	現況騒音レベル (L _{Aeq})	総合騒音レベル (L _{Aeq})	環境基準値	
						昼間	夜間
環境 1	平日	昼間	48	46	50	60	50
		夜間		41	49		
	休日	昼間		44	49		
		夜間		39	49		
環境 2	平日	昼間	45 (47)	55	55 (56)		
		夜間		45	48 (49)		
	休日	昼間		52	53 (53)		
		夜間		44	48 (49)		
環境 3	平日	昼間	43 (45)	52	53 (53)		
		夜間		45	47 (48)		
	休日	昼間		51	52 (52)		
		夜間		44	47 (48)		

※環境2、環境3の（ ）内の値は最も影響の大きい高さでの予測値である。

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：騒音 ● 評価項目：施設の供用

■ 施設の供用により発生する騒音の各高さでの到達騒音レベル 単位：デシベル

環境 2			環境 3		
階数	高さ	到達騒音レベル (L _{Aeq})	階数	高さ	到達騒音レベル (L _{Aeq})
1F	1.2	45	1F	1.2	43
2F	5	46	2F	5	43
3F	8	46	3F	8	43
4F	11	46	4F	11	43
5F	14	46	5F	14	44
6F	17	46	6F	17	44
7F	20	46	7F	20	44
8F	23	46	8F	23	44
9F	26	46	9F	26	45
10F	29	47	10F	29	45
11F	32	47	11F	32	45
—	—	—	12F	35	45
—	—	—	13F	38	45
—	—	—	14F	41	45
—	—	—	15F	44	45

■ 調査・予測の手法：低周波音

<評価項目>

〔施設の供用〕

- ・ 施設の供用（設備の稼働）による
低周波音の影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：低周波音 ● 評価項目：施設の供用



<調査内容>

■ 調査項目

- ・ 低周波音の状況

■ 調査方法

- ・ 現地調査
(対象事業実施区域周辺 3 地点)

<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 設備の稼働による低周波音の影響

■ 予測方法

- ・ 数値計算 (音の伝播理論式)

凡例 ○ 対象事業実施区域
● 調査地点 (施設の供用)

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：低周波音 ● 評価項目：施設の供用

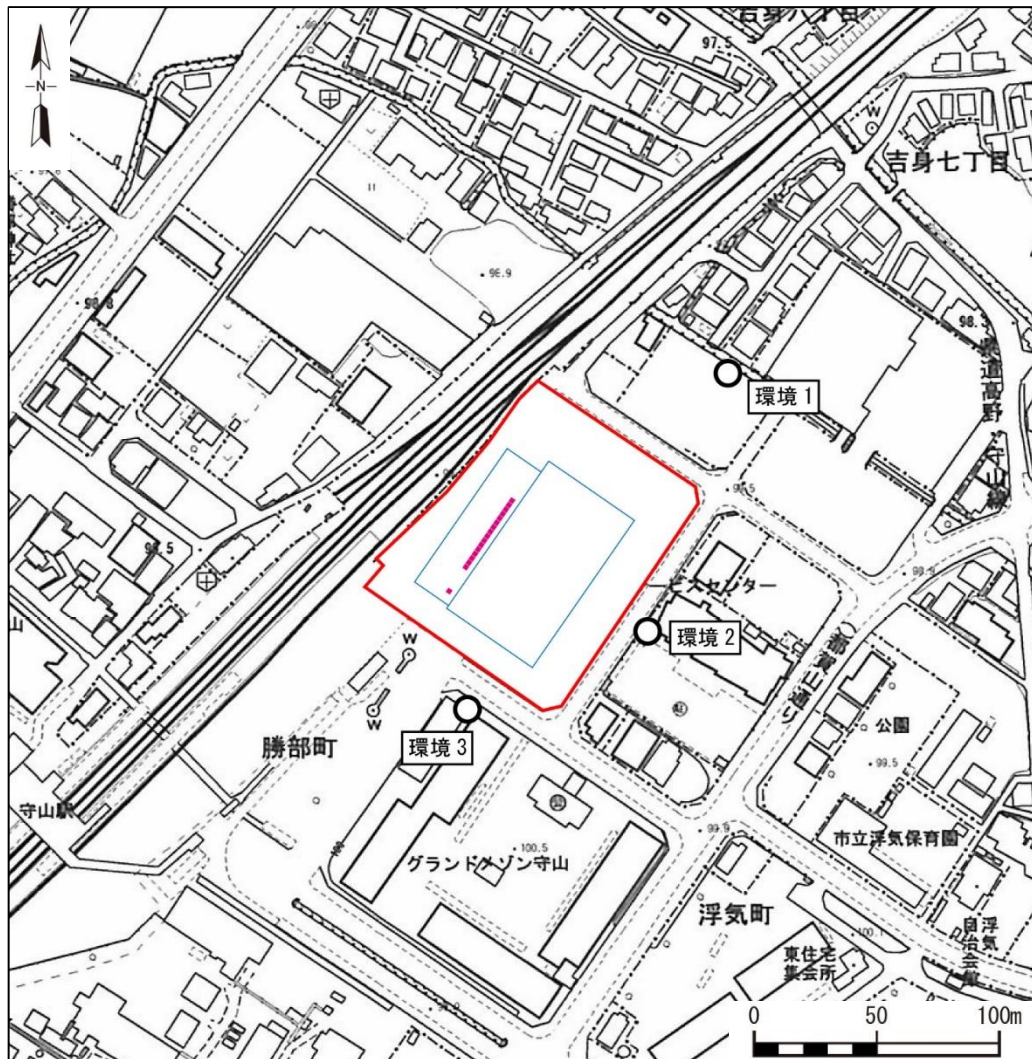
■ 低周波音発生源のパワーレベル




設備名称	規格	台数	パワーレベル (デシベル)	稼働時間
冷却塔	5.5kW	19	95.9~102.8	24時間

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：低周波音 ● 評価項目：施設の供用

■ 空調設備等配置



- | | | |
|----|---|-----------------------|
| 凡例 |  | 対象事業実施区域 |
| |  | 冷却塔 |
| |  | 建屋障壁 |
| |  | 施設低周波音影響予測地点（環境1・2・3） |

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：低周波音 ● 評価項目：施設の供用

<予測結果>

対象事業実施区域周辺住居地点での空調設備等の稼働により発生する低周波音の到達G特性音圧レベルと、現況G特性音圧レベルとを合成した総合音圧レベルは最大で67デシベル(G)になると予測され、心身に係る苦情に関する参照値を下回ると予測されました。

単位：デシベル(G)

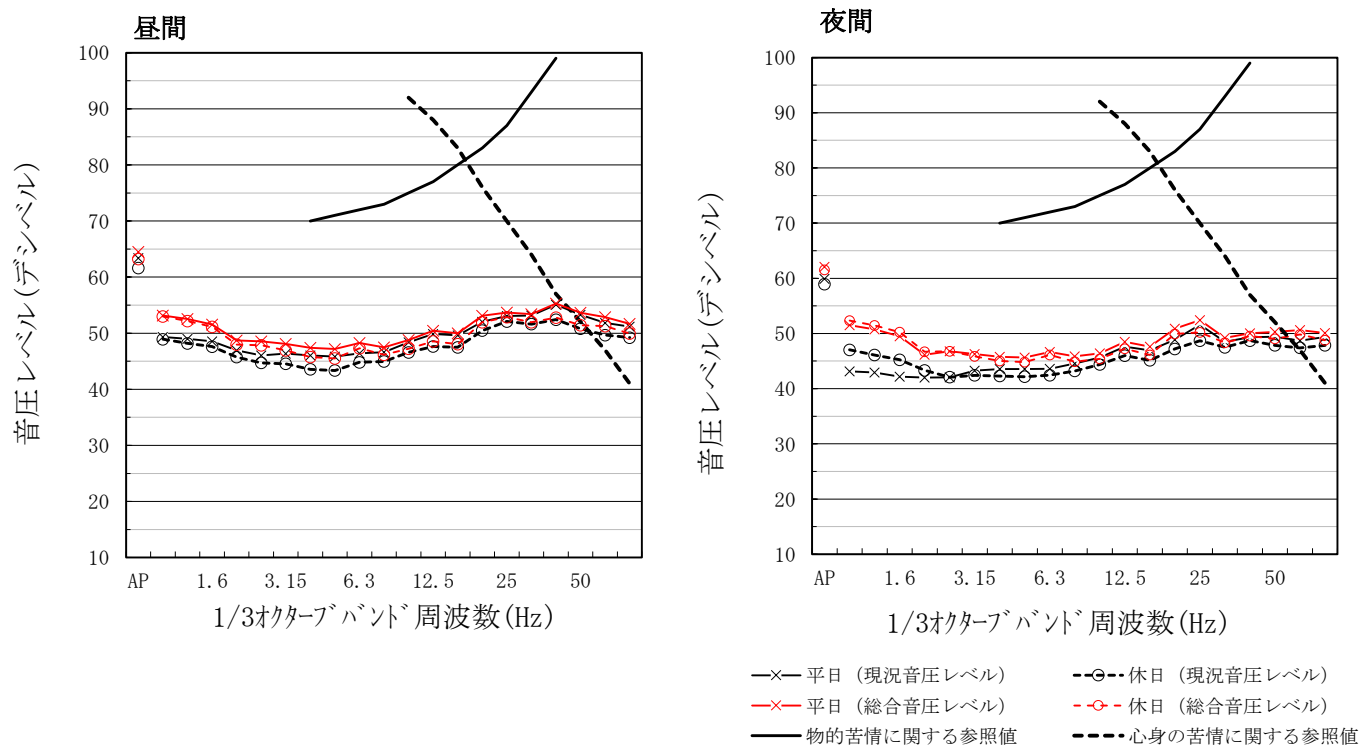
予測地点	平休	時間区分	到達音圧レベル	現況音圧レベル	総合音圧レベル	心身に係る苦情に関する参照値
環境1	平日	昼間	57	63	64	92
		夜間		60	62	
	休日	昼間		62	63	
		夜間		59	61	
環境2	平日	昼間	54(55)	67	67(67)	
		夜間		62	63(63)	
	休日	昼間		65	65(65)	
		夜間		61	62(62)	
環境3	平日	昼間	61(61)	65	66(66)	
		夜間		62	65(65)	
	休日	昼間		64	66(66)	
		夜間		60	64(64)	

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：低周波音 ● 評価項目：施設の供用

<予測結果>

心身に係る苦情に関する参照値との比較については、50Hz以上において参照値を上回るものと予測されたが、これは現況音圧レベルで既に参照値を上回っているためであり、本事業の実施による音圧レベルの上昇は小さいと予測されます。



■ 調査・予測の手法：振動

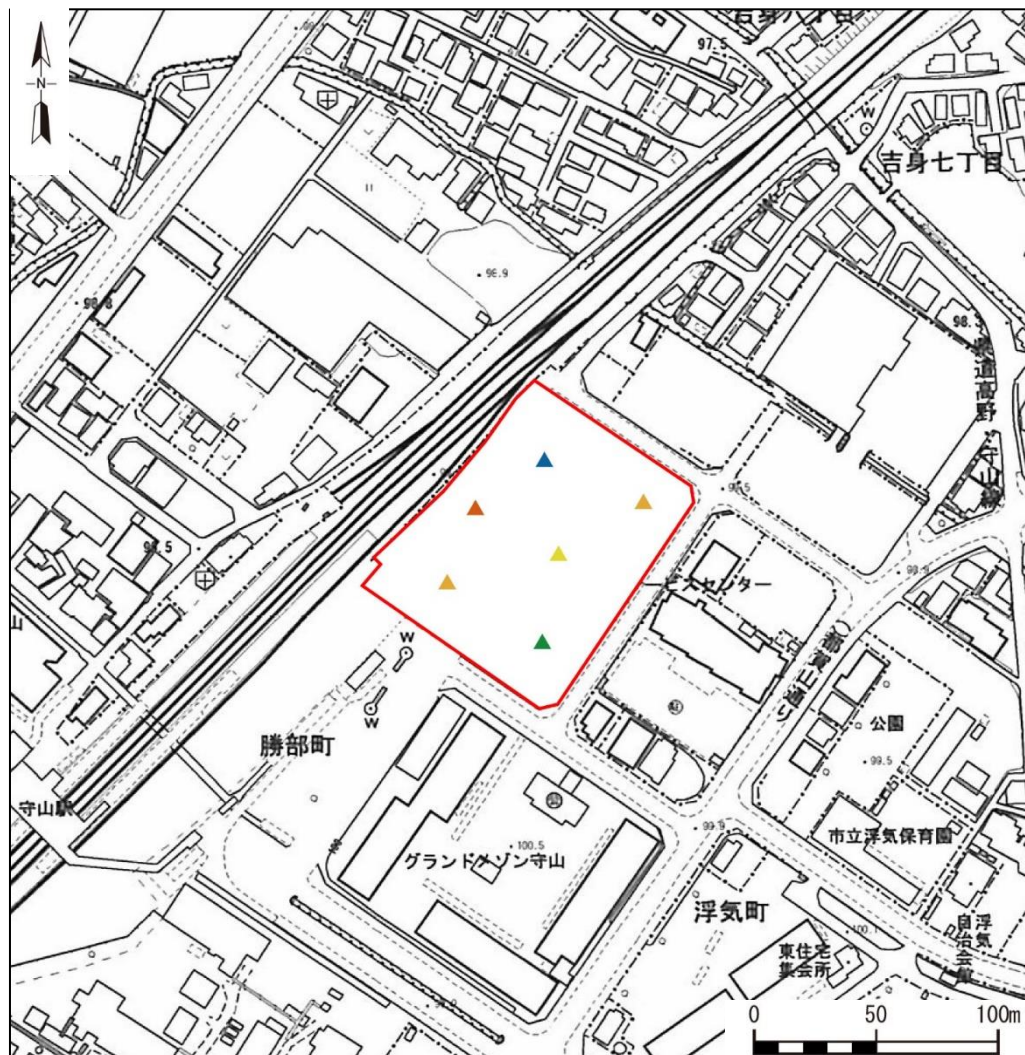
<評価項目>

〔工事の実施〕

- ・ 重機の稼働による振動の影響
- ・ 工事用車両の走行による振動の影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：振動 ● 評価項目：重機の稼働



<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 工事中：重機の稼働による振動の影響

■ 予測方法

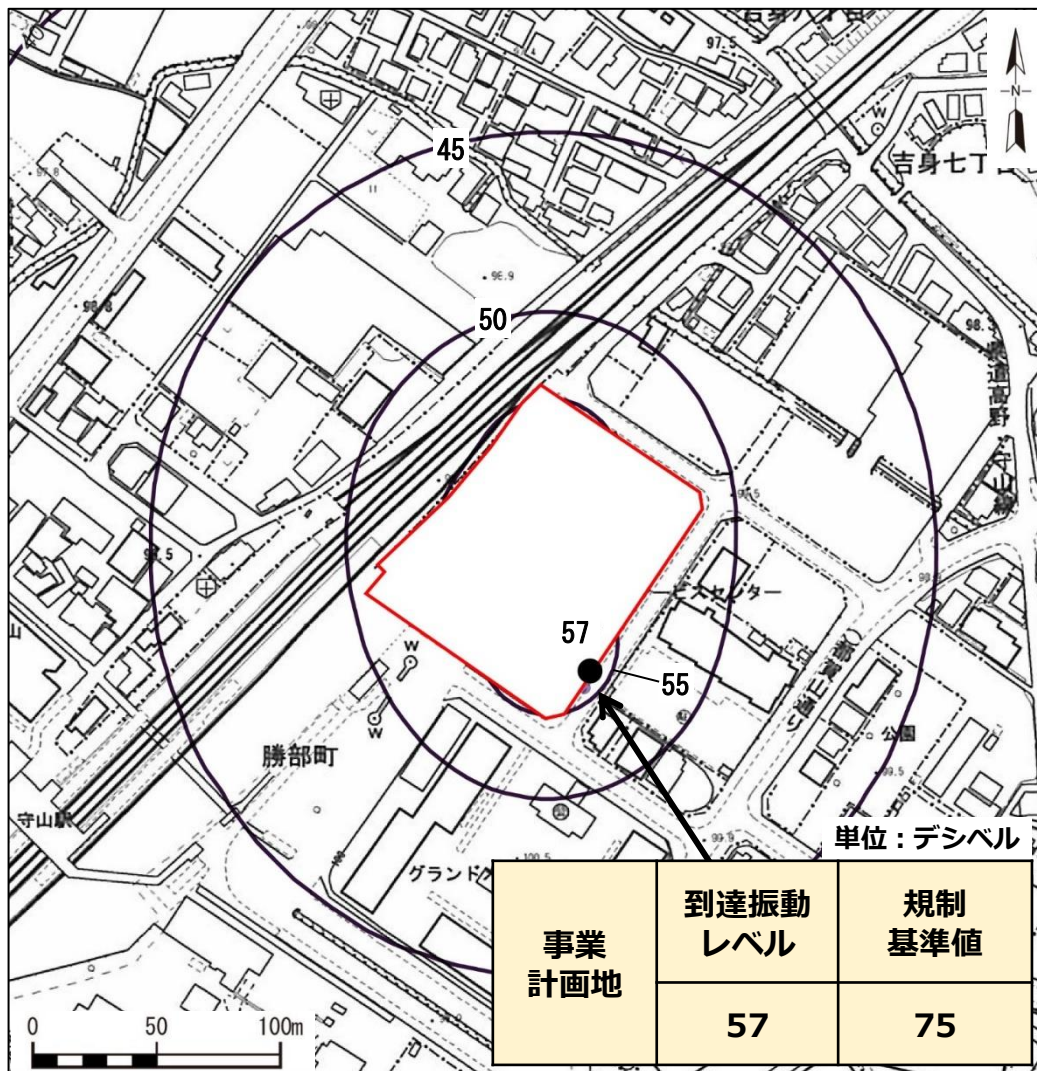
- ・ 数値計算（振動の伝播理論式）

凡例 ○ 対象事業実施区域

- ▲ 掘削機（3軸）
- ▲ 掘削機（アンギラス）
- ▲ バックホウ（0.7 m³）
- ▲ バックホウ（0.45 m³）
- ▲ バックホウ（0.25 m³）

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：振動 ● 評価項目：重機の稼働



<予測結果>

敷地境界の到達振動レベルが最大**57**デシベルと予測され、特定建設作業に係る振動の規制基準値（75デシベル）を下回ると予測されました。

- 凡例
-  対象事業実施区域
 -  最大振動地点

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：振動 ● 評価項目：工事用車両の走行

<予測結果>

道路交通振動の増分は最大で0.8デシベルと予測され、工事中の道路交通振動の予測結果は要請限度値および人間の振動の感覚閾値である55デシベルを下回ると予測されました。

単位：デシベル

予測地点	時間区分	振動レベルの80%レンジ上端値（L ₁₀ ）			要請限度値
		一般車両＋工事用車両	一般車両	工事用車両による増分	
交通 1	昼間	42.0	41.2	0.8	70
	夜間	30.0	30.0	0.0	65
交通 2	昼間	43.4	42.7	0.7	70
	夜間	31.1	31.1	0.0	65

■ 調査・予測の手法：電波障害

<評価項目>

〔施設の存在〕

- ・ 建築物の設置による電波障害への影響

10. 環境影響評価の結果

- 調査・予測の手法：電波障害
- 評価項目：施設の存在

<調査内容>

■ 調査項目

- ・ テレビジョン電波受信状況

■ 調査方法

- ・ 現地調査（電波測定車）

<予測内容>

■ 予測項目

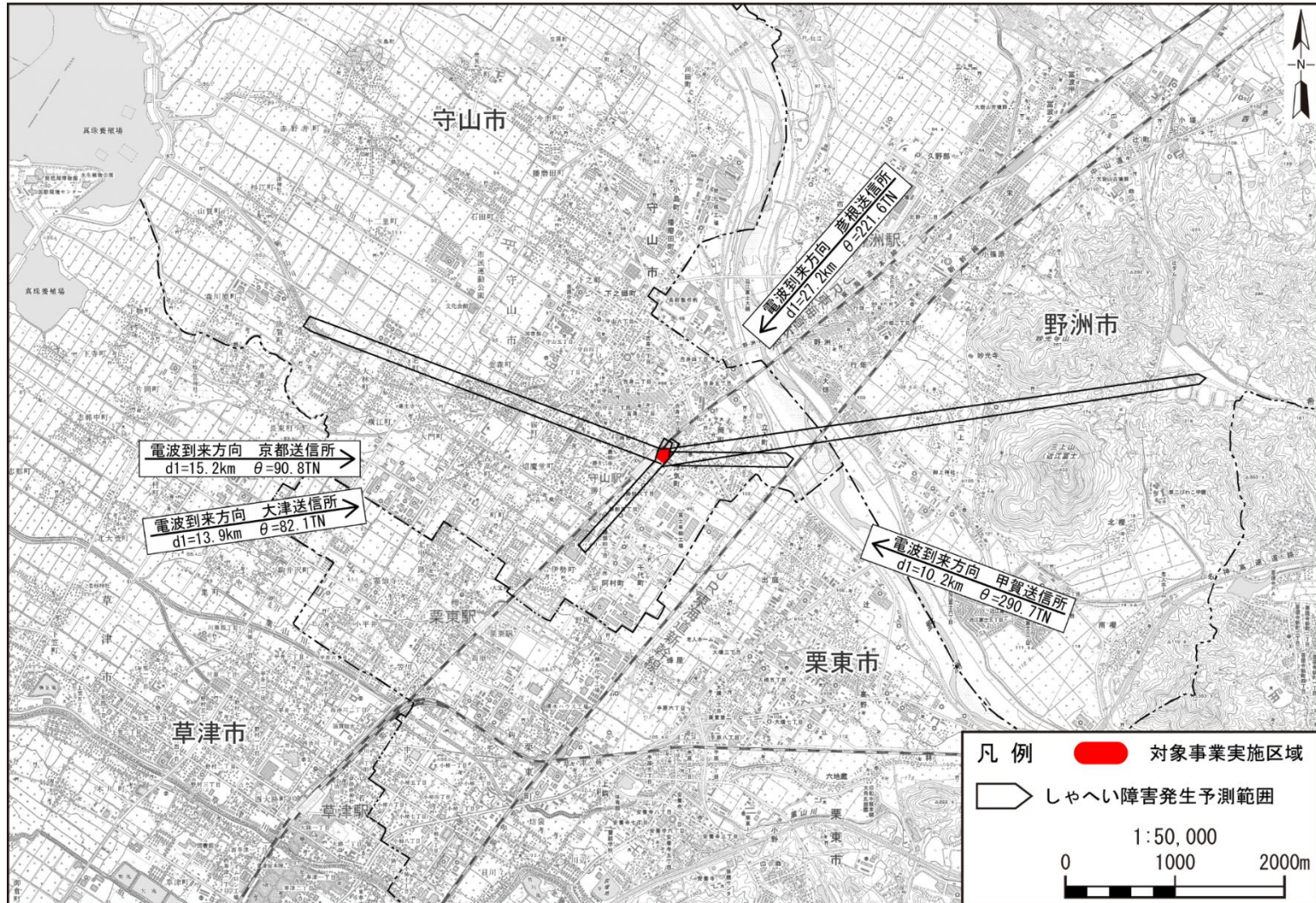
- ・ 建築物設置後の電波障害の状況

■ 予測方法

- ・ 数値計算（理論計算式）による障害範囲図の作成

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：電波障害 ● 評価項目：施設の存在



10. 環境影響評価の結果

■ 環境影響予測の結果：電波障害 ● 評価項目：施設の存在

<予測結果>

しゃへい障害が発生する地域があると予測されましたが、障害発生範囲におけるアンテナ方向の調整またはCATVへの加入もしくは共同受信設備の設置による受信障害対策を行うため、実行可能な範囲内で影響は回避又は低減されると考えられます。

■ 調査・予測の手法：水象（流量）・水質（水の濁り）

<評価項目>

〔工事の実施〕

- ・ 地下汲み上げ水の放流による
河川流量・河川水質への影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：水象（流量）・水質（水の濁り） ● 評価項目：土地の改変

<調査内容>

■ 調査項目

- ・ 流量の状況、水質の状況

■ 調査方法

- ・ 既存資料調査
（対象事業実施区域下流 1 地点
：守山市による水質等調査地点）

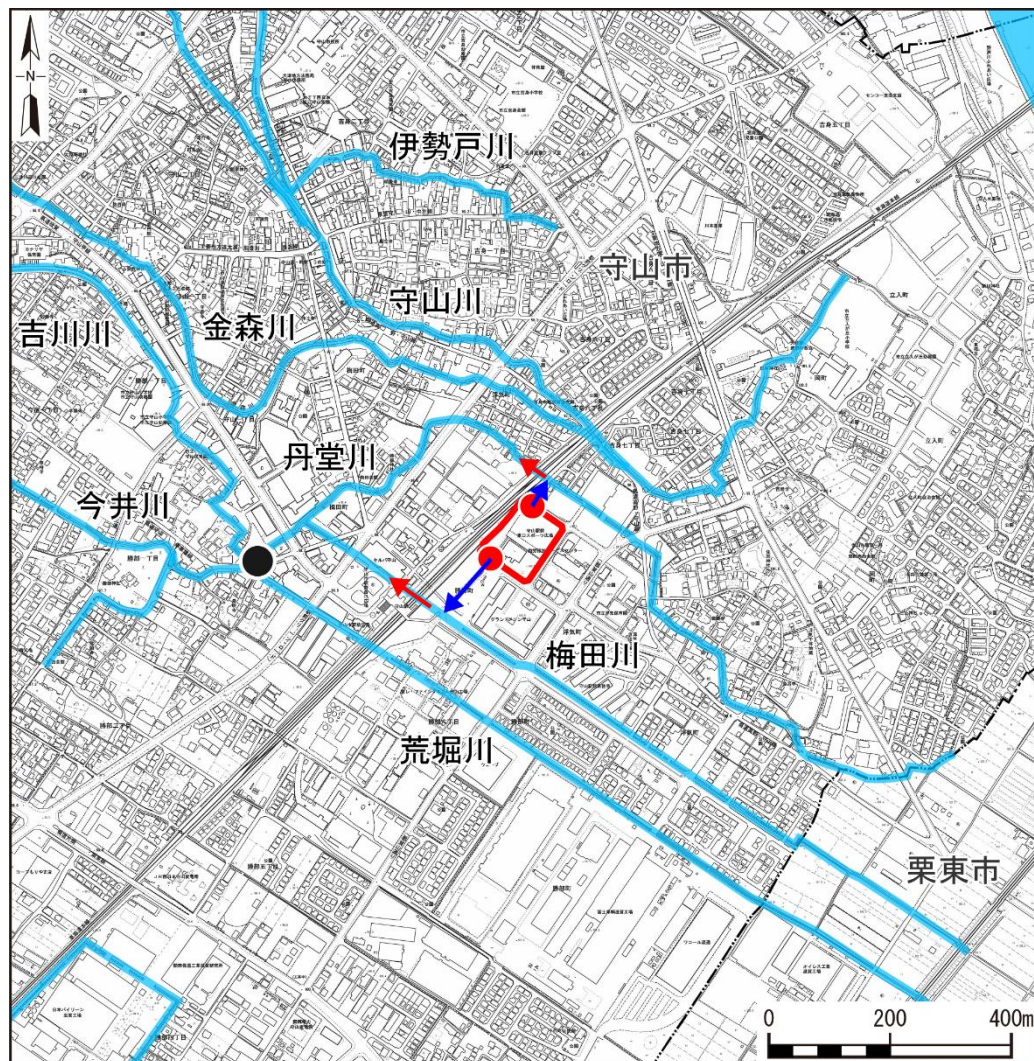
<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 工事中の流量・水質の状況

■ 予測方法

- ・ 現況調査結果および工事計画に
基づき予測



- 凡例
- 対象事業実施区域
 - 河川
 - 水質調査地点
 - 排水放流地点
 - 側溝および流れの方向
 - 流れの方向

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：水象（流量）・水質（水の濁り） ● 評価項目：土地の改変

■ 対象事業実施区域下流河川における流量の状況

単位：m³/秒

測定月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	最大	最小	平均
H29年度	0.080	0.216	0.216	0.055	0.009	0.004	0.216	0.004	0.097
H30年度	0.283	0.147	0.123	0.063	0.032	0.042	0.283	0.032	0.115
R 1 年度	0.141	0.153	0.313	0.032	0.023	0.183	0.313	0.023	0.141
R 2 年度	0.062	0.167	0.017	0.016	0.070	0.005	0.167	0.005	0.056
R 3 年度	0.200	0.002	0.003	0.009	0.004	0.010	0.200	0.002	0.038
全体	-	-	-	-	-	-	0.313	0.002	0.089

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：水象（流量）・水質（水の濁り） ● 評価項目：土地の改変

<予測結果>

- 地下水汲み上げに伴い発生する排水：1.493 m³/分 = 0.025m³/秒
- 地下工事による排水量は平均流量（0.089m³/秒）の約28%であり、また、河川流量の変動は大きい（0.002～0.313m³/秒）ことから、本事業が河川の流量に著しい影響を及ぼすことはないと考えられます。
- 工事中の雨水排水を周辺河川に放流する場合は、濁水処理等を行い、排水基準に適合していることを確認するとともに、汲み上げた地下水はそのまま排水することから、河川水質を悪化させることはないと考えられます。

井戸	揚水量
井戸 1	0.139 m ³ /分
井戸 2	0.404 m ³ /分
井戸 3	0.304 m ³ /分
井戸 4	0.347 m ³ /分
井戸 5	0.299 m ³ /分
合計	1.493 m ³ /分

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：景観

<評価項目>

〔施設の存在〕

- ・ 建築物の設置による景観への影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：景観 ● 評価項目：施設の存在

<調査内容>

■ 調査項目

- ・ 対象事業実施区域方向の景観の状況

■ 調査方法

- ・ 現地調査（写真撮影）

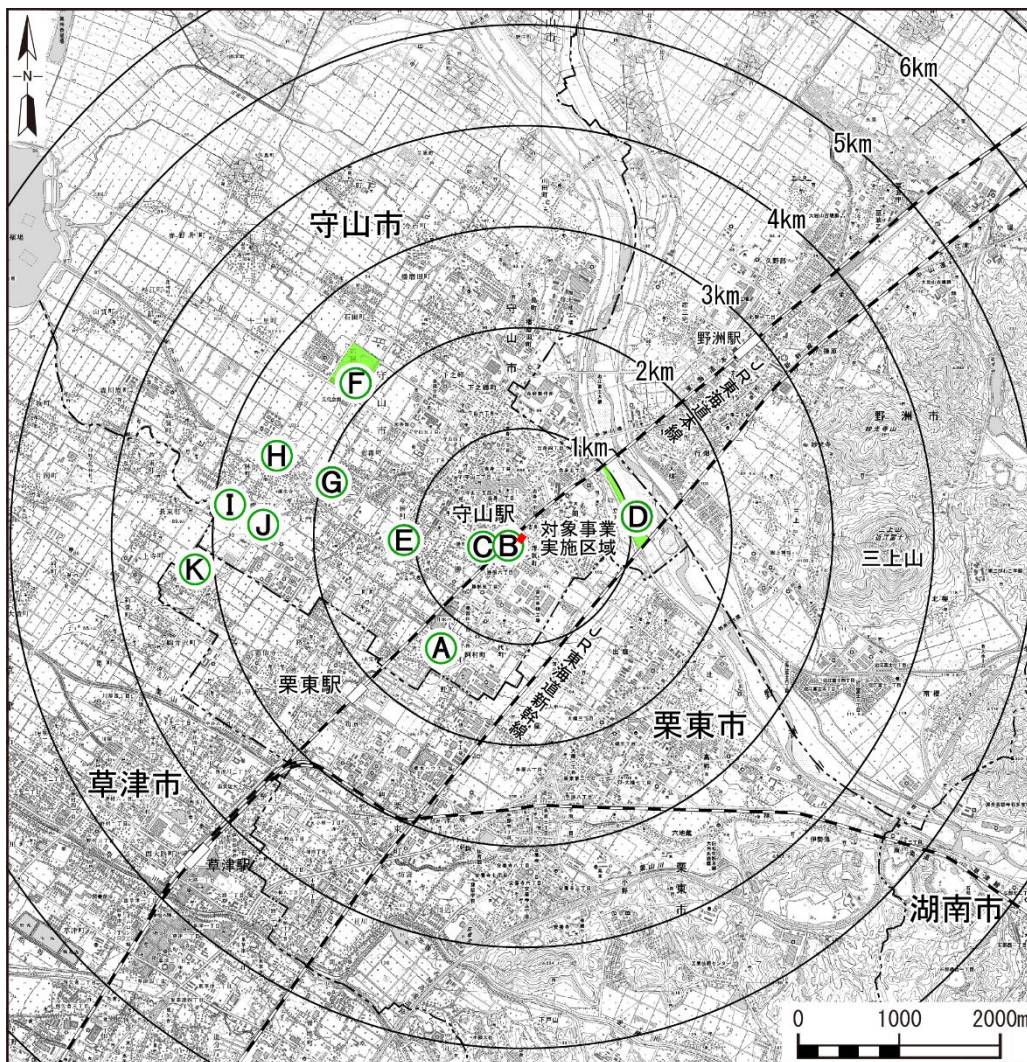
<予測内容>

■ 予測項目

- ・ 建築物設置後の景観の状況

■ 予測方法

- ・ 将来景観予測図（モンタージュ）の作成



凡例 ● 対象事業実施区域

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ● A 伊勢遺跡 | ● G 金ヶ森町城ノ下地区 |
| ● B JR 守山駅東口ロータリー | ● H 新守山川橋上（三宅町） |
| ● C JR 守山駅西口ロータリー | ● I 弥生の里 |
| ● D 野洲川立入河川公園 | ● J 湖南街道 |
| ● E えんまどう公園 | ● K 十里地区 |
| ● F 守山市民運動公園 | |

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点① 伊勢遺跡



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

近景域：眺望点⑧ JR守山駅東口（ロータリー）



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

近景域：眺望点◎ JR守山駅西口（ロータリー）



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点④ 野洲川立入河川公園



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点⑤ えんまどう公園



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点⑥ 守山市民運動公園



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点㊄ 金ヶ森町城ノ下地区



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点④ 新守山川橋上（三宅町）



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点① 弥生の里



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

中景域：眺望点① 湖南街道



10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

遠景域：眺望点Ⓚ 十里地区



■ 環境影響予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

<予測結果>

■ 近景域（B、C）

- 以前の中層建築物等にかわって視認されることとなります。
- 本事業では、守山駅前のオープンスペースや中層の集合住宅が立ち並ぶ環境が閉鎖的な印象とならないよう、高層部を基壇部からセットバックさせることで、空への視線を極力確保します。
- 階ごとに凹凸を律動的に設けた現代的なデザインを採用することで、守山駅前の新たな顔として活気と魅力のある景観創出へ寄与することができると考えます。

■ 環境影響予測の結果：景観 ● 評価項目：施設の存在

<予測結果>

■ 中景域・遠景域（A、D～K）

- 対象事業実施区域周辺では、建物等の背後に高層部の一部が新たに視認され、西側の地点の一部では、三上山の前に計画建築物の高層部の一部が新たに視認されることとなります。
- 本事業では、対象事業実施区域周辺や三上山を眺望する風景を極力損なわないようにするため、計画建物をシンプルなシルエットとし、抑制的な彩色を採用することなどにより、既存の景観に与える影響を極力低減することに努めます。

■ 調査・予測の手法：廃棄物等

<評価項目>

〔工事の実施〕

- ・ 工事の実施に伴い発生する廃棄物・
残土の影響

〔施設の供用〕

- ・ 施設の供用に伴い発生する廃棄物
の影響

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：廃棄物等 ● 評価項目：土地の改変

<予測結果>

■ 廃棄物

工事全体で3,250 t、リサイクル量は3,105 t、リサイクル率は96%、最終処分量は全体で145 tと予測されました。廃棄物については、可能な限り場内で種類ごとに分別し、リサイクルを図ります。

廃棄物の種類		発生量(t)	組成比(%)	リサイクル率(%)	リサイクル量(t)	処分量(t)
がれき類	コンクリート塊	1,250	38.5%	99%	1,238	12
	アスファルト・コンクリート塊	290	8.9%	99%	287	3
ガラス・陶磁器くず		250	7.7%	95%	237	13
		160	4.9%	90%	144	16
		260	8.0%	97%	252	8
廃プラスチック類	170	5.2%	97%	165	5	
木くず	50	1.5%	95%	48	2	
金属くず	230	7.1%	97%	223	7	
紙くず	200	6.2%	90%	180	20	
混合廃棄物	390	12.0%	85%	331	59	
計		3,250	100.0%	96%	3,105	145

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：廃棄物等 ● 評価項目：土地の改変

<予測結果>

■ 残土および汚泥

残土発生量は25,150m³、汚泥発生量は4,250m³と予測されました。残土・汚泥については、発生抑制に努めるとともに、有効利用の検討及びリサイクルに努めます。

残土発生量 (m ³)	汚泥発生量 (m ³)
25,150	4,250

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：廃棄物等 ● 評価項目：施設の供用

<予測結果>

- 一般廃棄物は147 t /年、産業廃棄物は1,246 t /年と予測されました。
- 産業廃棄物については全量をリサイクルする計画であり、全体のリサイクル率は93%、処分量は92 t /年と予測されます。

種 別		発生量(t/年)	リサイクル率(%)	リサイクル量(t/年)	処分量(t/年)
一般 廃棄物	紙 類	55	100	55	0
	食品残渣	50	0	0	50
	その他一般ごみ	42	0	0	42
	小 計	147	37	55	92
産業 廃棄物	廃プラスチック類	105	100	105	0
	廃 油	30	100	30	0
	廃 液 (廃酸・廃アルカリ)	1,099	100	1,099	0
	その他 (混合廃棄物等)	12	100	12	0
	小 計	1,246	100	1,246	0
合 計		1,393	93	1,301	92

■ 調査・予測の手法：温室効果ガス等

<環境影響要因>

[施設の供用]

- ・ 施設の供用に伴い発生する
温室効果ガスの影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：温室効果ガス等 ● 評価項目：施設の供用

■ 主なCO₂削減対策

区分	CO ₂ 削減対策
建築計画	外壁の高断熱化（15%低減）
熱源システム	空冷ヒートポンプ＋ターボ冷凍機、排熱利用
水搬送	冷温水変流量方式
	冷温水大温度差アップ
空調設備	パッケージ高効率仕様
	ファン効率アップ
	外調機変風量方式
	外気取入制御（CO ₂ 制御）

区分	CO ₂ 削減対策
照明設備	LED
	在室検知制御
衛生設備	節水器具設置
昇降機	高効率制御
雨水利用	雨利用
その他	太陽光発電設置

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：温室効果ガス等 ● 評価項目：施設の供用

<予測結果>

施設の供用により発生する温室効果ガスの排出量は、本事業により計画している環境保全対策を講じることにより、標準仕様と比較して23%削減できると予測されます。今後、最新の高効率機器等の導入を検討する、従業員に省エネの意識を徹底し効率的な運用に努める、使用する電気について再生可能エネルギーの導入を拡大するなど、さらなる二酸化炭素排出削減に取り組む計画です。

	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年)
標準仕様 (基準)	11,267
設計仕様	8,668
CO ₂ 削減量	2,599 (23%)

※ CO₂削減量合計欄の () 内は、基準CO₂排出量合計に対する比率です。

■ 調査・予測の手法：文化財

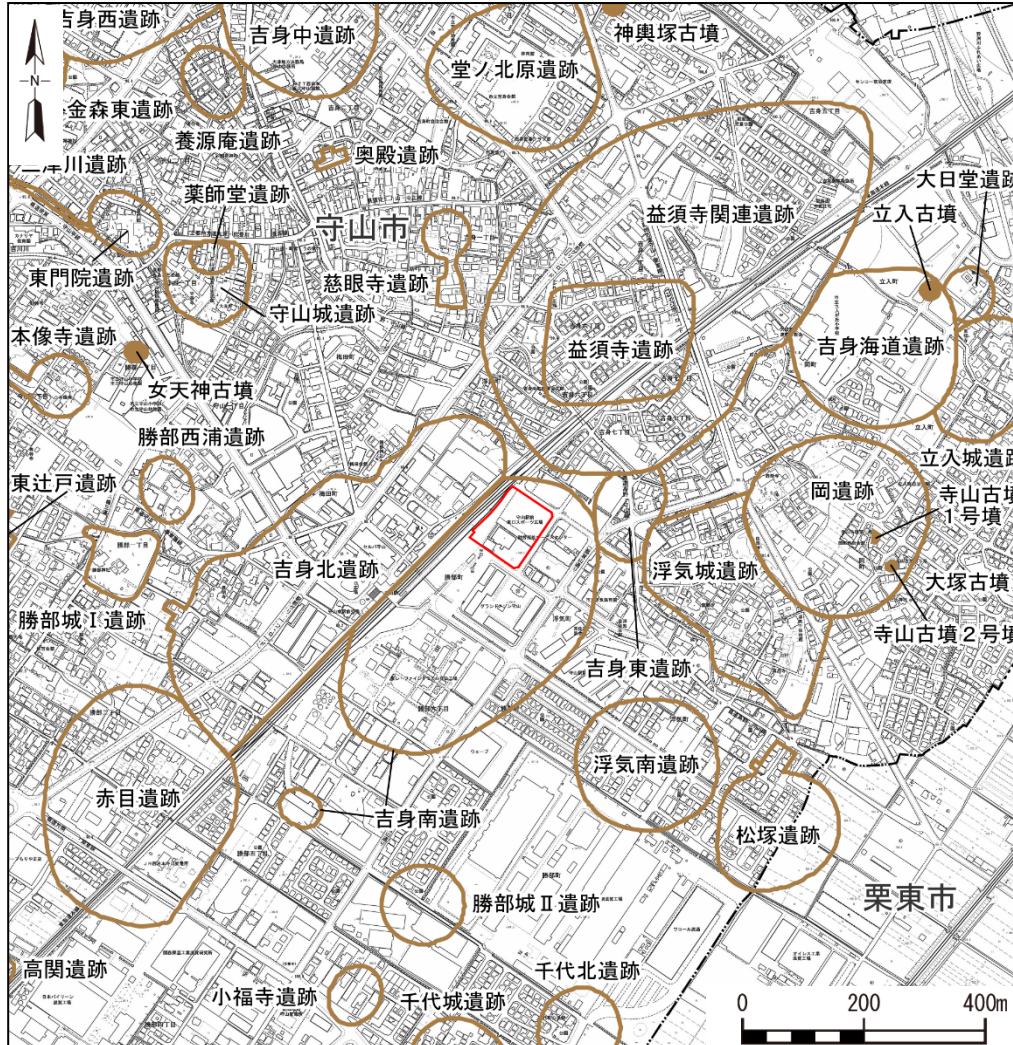
<評価項目>

〔工事の実施〕

- ・ 工事の実施による文化財（埋蔵文化財）への影響

10. 環境影響評価の結果

■ 調査・予測の手法：文化財 ● 評価項目：土地の改変



■ 周知の埋蔵文化財包蔵地の状況

- 凡例
- 対象事業実施区域
 - 埋蔵文化財包蔵地（遺跡分布範囲）
 - 古墳および古墳跡（埋蔵文化財包蔵地）

10. 環境影響評価の結果

■ 予測の結果：文化財 ● 評価項目：土地の改変

<予測結果>

- 対象事業実施区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地である吉身南遺跡の範囲となっています。
- 守山市により一部の区域については発掘調査が行われており、それ以外の必要な区域についても、本事業の掘削工事着手までに調査が行われる計画です。
- 本事業はその調査結果を踏まえて必要な対策を講じる計画であり、実行可能な範囲内で回避又は低減されるものと予測されます。

■ 環境影響評価の結果

〔環境影響の回避、低減に係る評価〕

以上の予測結果から、本事業が環境へ与える著しい影響は認められず、実行可能な範囲内の保全措置を講じることにより、影響は回避又は低減されると評価しました。

また、検討した環境保全措置の内容においても適切であると考えます。

〔基準等との整合性の検討〕

法律・条例により基準等が設定されている項目についても、それらとの整合が図られていると評価します。

■ 事後調査の検討結果

〔事後調査の検討結果〕

環境影響評価項目の一部については、想定される予測条件に幅があるため、安全側の予測条件を設定したこと、採用した予測の手法は、その予測精度に係る知見・事例等が十分に蓄積されているものであることから、この幅を大きく逸脱する可能性は小さいと考えられる。

以上のことから、滋賀県環境影響評価技術指針に基づく事後調査を実施する必要はないと考えられます。

〔自主的事後調査の実施について〕

対象事業実施区域周辺への配慮のため、騒音、振動および温室効果ガスについて、自主的に事後調査を実施します。

10. 環境影響評価の結果

■ 事後調査の検討結果

■ 事後調査の項目

環境要素	時期	調査項目
騒音	工事中	重機の稼働による騒音・振動
	供用後	施設の供用による騒音
振動	工事中	重機の稼働による騒音・振動
温室効果ガス	供用後	施設の供用による温室効果ガス排出量



以上